



5月号(No.138)

2020年5月8日

帝京大学小学校だより

帝京大学小学校



一步一步、でも着実に

帝京大学小学校校長 石井 卓之

今朝、校長室の窓を開けてベランダに出ていると、校庭のぼんぼこ山からは、「ホーホケキョ」という驚のすてきな声が聞こえてきました。港区の学校にはなかった素晴らしい環境に浸り、しばらくの間、聞き入っていました。

先日の学年ホームルームへのご協力、本当にありがとうございました。私も画面越しですが、子ども達の元気な姿を見ることができて、ほっとしました。いつもなら、新学期が始まってたくさんのワクワクと少しのドキドキが込められた一人一人の表情を確かめながら話をしているところですが、今年度はそれができませんでした。一日も早い学校再開を心待ちにしています。子どもたちがいない学校ですが、いつ始まってもよいように全教職員で環境整備を進めています。

文部科学省では、臨時休業期間中の学校(所管している小・中学校、高校、特別支援学校等を臨時休業としている教育委員会への調査)の状況を調査し、4月16日の正午の時点での集計として公表しました。それによると学習指導、生活指導・支援には、自治体間での差が大きいとして、「臨時休業中であっても最低限取り組むべき事項」をまとめて、国公私立学校に実施すように求めるとしています。調査結果からは、約5%の教育委員会において、同時双方向のオンラインを通じた家庭学習を行っていることが分かりました。

本校でも、先日行った学年ホームルームを経て5月3日(日)に第2回を実施します。子ども達が集中力を欠かない適切な時間、オンラインに適した教材やその提示の仕方、少ない人数と労力で行えるシステム構築など、実施しながら課題を明らかにし、修正をしていきます。今後は時間割を設定した上で、教師が授業を実施して子ども達はその動画を見る一方向の授業から始めます。さらに、段階的に双方向の授業へと一步一步進めていきます。様々な状況や制限からオンラインに入れなご家庭には、ホームページや紙媒体などを通して、情報を提供したり教材を補完したりしていきます。ご心配な点がありましたら、いつでもご連絡ください。

現在は、コロナウイルス感染症対策を主眼として取り組みを進めているオンライン授業ですが、今後の教育活動の幅を広げる可能性を秘めています。例えば英語の授業の総まとめとして、海外の学校とオンラインでつながり、自己紹介や学校紹介をすることを通して英語力を確かめることができます。また、在外の日本人学校や現地校と交流し、それぞれの国の伝統や文化、自然や環境、SDGsの取組などをリアルタイムに知ることもできます。キャリア教育の一環として、自分になりたい職種の企業や人材とつながり、教室で調べ学習をしながら質問をするなど、今までにない活動もすることができます。

